

名古屋市要介護度等改善事例公表事業

改善・向上したこと

- ・摂食・嚥下機能の向上により摂取可能な嗜好品が増え、施設の温泉旅行(1泊2日)に娘様と一緒に参加するという明確な目標が出来た。又、発語の明瞭さが向上した。
- ・リラクゼーション(アロマオイルでのマッサージなど)や施設でのイベントに参加することにより、生活リズムが整いBPSDが軽減し笑顔が増えた。
- ・QOLの向上により生活動作の範囲が広くなり、歩行能力が改善した。
- ・血液検査データ(アルブミン、総蛋白、赤血球)の数値が正常になり、体重増加も認め栄養改善された。

事業所	サービス種別	介護老人保健施設
	事業所名	介護老人保健施設 サン・くすのき
	所在地	名古屋市北区五反田町 111 番地
利用者	65 歳未満 ・ 65～70 歳 ・ <u>70 歳代</u> ・ 80 歳代 ・ 90 歳～	

取り組み

課題(取り組み前の時点)	転倒により右大腿骨頸部骨折を受傷される。(手術:人工股関節置換術) 入所時の所見では、入院生活による全身の筋力の低下により、歩行能力や摂食・嚥下機能の著明な低下を認めた。又、転倒・骨折をしたことにより抑うつ傾向で意欲の低下を認めた。		
本人の意向	もっと形のあるものを食べたい。転ばず安心して歩きたい。		
長期目標	施設の温泉旅行(1泊2日)に参加し食事を楽しむ。	取組期間	令和5年6月～(継続)
短期目標	摂食・嚥下機能を向上させ食形態を向上する。 歩行能力の向上により安心感を得る。	取組期間	令和5年6月～ 令和5年9月
関連する加算の算定状況		特になし	

具体的な取り組み事例(期間、頻度、内容、主に担当した職種など)

介護職

- ・定期的(2～4週に1度)な摂食・嚥下評価を実施し、食形態のベースアップや水分のとりみ付加量、シーティングなどを分析してカンファレンスを実施した。
- ・入院前より体重が10%減少し採血データより低アルブミン血症を認めた為、食事内容を高たんぱく食・高エネルギー食(必要エネルギー量×1.2)を提供し摂取状況を観察した。
- ・体重減少により義歯の不具合があり、歯科往診で義歯の調整を依頼した。
- ・誤嚥性肺炎のリスクが高い為、誤嚥予防を考慮したポジショニングの分析・実行や口腔ケアの指導・介入をした。
- ・食事時の重要ポイント(食べる順番や頸部前屈位、咳払いなど)を本人に指導した。

- ・毎食前に居室で嚥下機能改善を目的に頭部挙上訓練や歌を歌ったりなどの発声練習を実施した。
- ・嗜好の再確認をし、3カ月後の経口摂取に向け目標を決定した。
- ・自律神経を整え精神的な安定を目的に、リラクゼーション(アロママッサージなど)を定期的に実施した。
- ・生活動作での転倒リスク(トイレ・ベッド・浴室など)を洗い出し分析をした。
- ・歩行能力だけでなく全身の筋力向上を図り、食事前後以外にも歩行練習を取り入れた。
- ・娘様に現状の摂食・嚥下機能と本人のニーズ、目標に向け展開していく際のリスクなどインフォームドコンセントを実施した。
- ・統合失調症とアルツハイマー型認知症の合併症である為、統合失調症の陽性症状・陰性症状と認知症のBPSDの内容・頻度の観察や対応の情報共有をした。

リハビリ職

- ・歩行訓練(言語・嚥下訓練も)を中心に短期集中リハビリを3カ月間実施した。

看護職

- ・毎日バイタルサインの確認と呼吸音を聴取した。
- ・月1回の採血を実施した。

結果(達成したこと、達成時期)

令和5年9月末時点(3カ月)での達成内容

- ・毎日の頭部挙上訓練などにより咀嚼筋の筋力や喉頭挙上力が顕著に向上した。又、耐久性も向上し1食の摂食・嚥下機能のムラも減少した為、食形態をミキサー/ミキサーから全粥/極刻みにベースアップした。(最終目標は軟飯/一口大)
- ・歯科往診にて義歯調整を実施した。
- ・軽度のオーラルジスキネジアやアカシジアにて姿勢保持が困難なこともあるが、概ね誤嚥を予防した摂取動作の理解力が向上し、自己にて出来るようになった。
- ・高エネルギー・高たんぱく食の提供でも摂取量が安定し、体重が8%増加、採血データ(アルブミン、総蛋白)が正常に戻った。
- ・希望であったネギトロ丼(全粥)を摂取出来た。(最終目標は軟飯だが、寿司の希望がある為ネタにより検討していく)
- ・水分のとりみの付加量が減った。(マヨネーズ状からケチャップ状へ)
- ・転倒がなくシルバーカー歩行での安定感が出てきた為、見守りから自立になった。
- ・抑うつ状態が軽減され自発的な運動が出来るようになった。
- ・施設でのイベントに参加することにより、生活リズムが整い BPSD が軽減し笑顔が増えた。

達成後の課題・目標

- ・施設の温泉旅行(1泊2日)での歩行を目標に、耐久性の向上が必要である。引き続き歩行を中心に、リハビリや生活での運動を継続する。
- ・摂食・嚥下機能は向上したが温泉旅行(1泊2日)での食事を楽しむ為に、引き続き毎食前の頭部挙上訓練や発声練習を行い、食形態のベースアップを目標とする。(最終目標は軟飯/一口大)
- ・右大腿骨頭部骨折により人工股関節置換術にて手術されている。ADLでは一般の入浴形態で可能だが、脱臼肢位により一般浴が困難で機械浴で実施中。温泉旅行に向けて施

設内でも浴槽内に介護椅子やベンチシートを使用し、脱臼を予防した入浴を練習する。
持ち運び可能な介護椅子の選定もする。

- ・誤嚥性肺炎予防にて引き続き、ポジショニングや口腔ケアの介入をしていく。

※ 個人情報の取り扱いにご注意ください。